

肝細胞癌患者における手術術式の難易度分類の検討

本学で実施しております以下の研究についてお知らせいたします。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	肝細胞癌患者における手術術式の難易度分類の検討
倫理審査 受付番号	第2977号
研究期間	2018年 7月倫理審査承認日～2022年 7月31日
研究対象情報 の取得期間	下記の期間に当院 肝・胆・膵外科を受診された肝細胞癌の方 2001年 1月 1日～2016年12月31日
研究に用いる 試料・情報	カルテ情報
研究概要	(研究目的、意義) 肝細胞癌に対して肝切除術は最も有効な治療法の一つです。以前より、3 亜区域以上の肝切除を大量肝切除と定義され術後重症合併症の危険因子として報告されてきました。しかし、2 亜区域を切除する前区域切除術は、定義上大量肝切除ではないのですが非常に手術手技の困難な術式で術後重症合併症がしばしばみられます。

本研究の目的は、手術手技の困難さを基準に手術術式を分類し、重症合併症、手術時間、出血量、術後短期成績との関係を検討します。本研究による新たな手術術式分類を用いることで、術中の大量出血や術後の重症合併症を予測できそれらの対策があらかじめ可能となります。

(研究の方法)

当科で2001年1月1日から2016年12月31日までに肝細胞癌に対して術前治療を受けていない初回肝切除を受けた患者さん640人が対象です。

手術術式により、高難度、中難度、低難度の3つに分類し、術後重症合併症、手術時間、出血量、術後短期成績との関係を検討します。

(個人情報の取扱い)

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（2015年4月施行）」に従って本研究を実施し、被験者の人権、福祉および安全を最大限に確保する。本研究に際して得られた個人情報等、患者さんのプライバシーは外部に漏洩しないよう配慮します。論文発表時には、個人が特定されないように配慮し記載します。

**本研究に関する
連絡先**

兵庫医科大学病院 肝・胆・膵外科
藤元 治朗（研究責任者）
中村 育夫（実務責任者）

TEL |（平日 9：00～17：00） 0798-45-6582
（上記時間以外） 0798-45-6583

本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、上記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。